



禁煙治療の普及を願って

広島県医師会禁煙推進委員会委員長

日本赤十字広島看護大学教授

川根博司

2006年4月から禁煙治療が保険適用（ニコチン依存症管理料）となり、3年半余り経った。2009年10月現在、保険適用機関は約9,000となっており、受診者数は毎年15万人前後のことである。しかし、成人喫煙者数は約2,600万人と推計されているので、この受診者数は現喫煙者数の約0.6%にとどまることになる。

禁煙治療の保険適用の要件を緩和し、歯科（歯周疾患対応）の禁煙治療の保険適用を新設して、より多くの禁煙治療の機会拡大を図ることが望まれる。現在、日本禁煙学会などを中心に、厚生労働大臣と中央社会保険医療協議会宛の署名を集める活動が行われているところである。そして、今話題になっているタバコ税の大幅増税が実施されれば、禁煙外来への受診者がますます増えると予想される。

そこで今回は、筆者が企画編集して本委員会の委員も執筆陣に加わった、Modern Physician（新興医学出版社 <http://shinkoh-igaku.jp/moderntop.html>）の特集「禁煙外来の最前線-

禁煙を成功に導く戦略・戦術」（図参照；2009年12月1日発売予定）を紹介したいと思う。内容（目次）を表に示すが、これ1冊で喫煙問題と禁煙治療の方法がわかるようにしたつもりである。また、「世界史のなかのタバコと反タバコ」は学術専門家に執筆をお願いしたが、タバコの歴史について面白い読み物となっている。禁煙指導・禁煙治療に関心をお持ちの方は、ぜひ手元に置いて日常診療に役立てていただければ幸いである。

ところで、同特集の「タバコ規制対策の現状」にも述べられているが、喫煙者を減らすためにはタバコ代値上げ・タバコ税増税がきわめて有用である。民主党政権はタバコ税の大幅引き上げに意欲的な姿勢を見せているものの、タバコ業界からの反対も大きい。タバコ税増税への世論の盛り上がり期待される。最後に、タバコ増税を訴えた私の投書（11月10日付中国新聞）を転載して稿を終えたい。

利点多いたばこ増税

最近、たばこ増税の話が出てきているが、「困ったときのたばこ税」という言葉もあるようだ。

世界保健機関（WHO）によると、世界中で毎年500万人が、たばこが原因で死亡しているという。わが国でも年間11万人以上の方が、喫煙関連の病気で亡くなっている。

先進国においては、たばこは病気と早死の原因の中で、単一で予防できる最大のものである。社会保障費のために健康保険料や消費税を上げるのではなく、たばこ税を大幅に上げるべきである。

たばこ代値上げにより税収入は増えるし、たばこを吸う人が少なくなれば病気が減って医療費も少なくて済む。

先の衆院選では、すべての政党が「国民の命と健康を守る」を旗印にしていた。たばこ税増税は一石二鳥どころか、三鳥にも四鳥にもなるのである。



図 モダンフィジシャン29巻12号の表紙

表 特集「禁煙外来の最前線」の内容

-
- 今なぜ禁煙なのか－オーバービュー
 1. ヘルスプロフェッショナルと禁煙指導
 2. 世界史のなかのタバコと反タバコ
 3. 世界と日本の喫煙状況
 4. タバコ規制対策の現状
 5. 医療機関の敷地内禁煙
 - タバコの害、喫煙行動
 1. タバコ煙に関する基本的知識
 2. 能動喫煙の健康影響
 3. 受動喫煙による健康影響
 4. 喫煙／禁煙の基礎知識－ニコチン依存症
 5. 喫煙／禁煙の基礎知識－行動変容のプロセス
 - 禁煙指導・禁煙治療
 1. 禁煙の保険診療
 2. 一般外来における禁煙指導の進め方
 3. 入院患者への禁煙指導
 4. 禁煙治療の実際(カウンセリング・行動療法)
 5. 禁煙治療の実際(薬物療法)
 6. 女性への禁煙指導のコツ
 7. 精神疾患のある喫煙者への禁煙指導
 8. 特定健康診査・特定保健指導における禁煙指導
 9. 職場における禁煙指導
 10. 症例呈示(無関心期)
 11. 症例呈示(関心期)
-

厚生労働省版

禁煙支援マニュアル

今般、厚生労働省(健康局総務課生活習慣病対策室)において、禁煙支援マニュアルがとりまとめられました。日常の禁煙指導にお役立て下さい。

なお、内容は厚生労働省ホームページ「たばこと健康に関する情報ページ」で閲覧することができます。

◆禁煙支援マニュアル

URL <http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.html>

CD-ROMの必要な方は県医師会総務課までご連絡下さい。TEL. 082-232-7211

〈広島県医師会禁煙推進委員会〉